

新型コロナやっとな終息視野も…WHO テドロス事務局長の責任を追及する声

2022.09.15 日刊ゲンダイ



ようやくだ。WHO（世界保健機関）のテドロス事務局長が14日、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）の「終息が視野に入った」との認識を示した。WHOの統計によると、昨年1月には、1週間で10万人超だった世界の死者数が、今年9月5～11日は約1万1000人となり、世界的にみても死者数が減少傾向にある。

テドロス氏は「パンデミックを終わらせるのに、われわれはかつてないほど良い位置にいる。まだ到達してはいないが、終息が視野に入った」と語る一方、「走るのをやめるには今は最悪の時だ」などと慎重姿勢も崩さなかった。

ネット上では、「早くマスクを取る生活を送りたい」、「やっとな日常生活がふつうに戻るのか」などと歓迎する声が上がっているが、複数見られるのがテドロス氏の責任を追及する意見だ。

《パンデミック終息に時間がかかったのは、WHOの初動対応が愚鈍だったから。テドロス事務局長の責任は大きい》

《残念だが、テドロス事務局長の言葉には1%の信頼性も持てない》

新型コロナは2019年12月に中国湖北省武漢市で第1例が確認され、その後、急激な勢いで感染を拡大。WHOは2020年1月に「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言したものの、テドロス氏が「パンデミックと表現できるとの判断に至った」との見方を示したのは同3月だった。

当時、「もっと早く、WHOがパンデミックを宣言して各国に警告していれば拡大は防げたのではないか」、「中国に配慮して宣言が遅れたのではないか」といった声飛び交っていたが、この時の批判の声がテドロス氏を追及する声となっているようだ。

新型コロナの感染者数は延べ6億人超、死者数は約650万人に上る。終息後、WHOに対して初動対応の検証を求める声が出てくるかもしれない。

物見遊山で来日したWHOテドロス事務局長「五輪精神でコロナ克服を」とたわ言

2021/07/31 日刊ゲンダイ

能天気なのは“ぼったくり男爵”バウハ IOC会長だけではなかった。WHOのテドロス事務局長は30日の記者会見で、日本で新型コロナ感染が拡大している最中、五輪開幕に合わせて訪日したことを問い詰められたのに対し、「東京に行ったのは連帯や団結という五輪精神をパンデミック克服に生かすよう世界に求めるためだ」と言い訳。世界的なワクチン分配の不公正は正などを訴えるために「五輪という山頂に上るのは間違っているだろうか。そうでないことを願う」と個人的希望を述べ、さらに、日本やIOCが感染対策で「ベストを尽くしている」とたわ言を並べた。

テドロスといえば、昨年2月、新型コロナ感染が中国以外の全世界に急速に広がる緊急事態であったにもかかわらず、「パンデミックではない」と誤ったメッセージを発した張本人だ。